

企画展

道教の世界

～沖縄・中国・台湾の民間信仰～

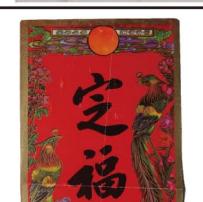
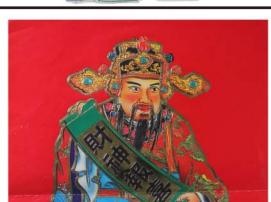


窟徳忠先生旧蔵道教関係資料コレクション展

東アジアで集めた
道教の博物誌



日常の中に隠れた
道教の品々



2014年

10月 13日 月 → 11月 15日 土

【開館時間】10:00 ~ 16:30 (入館は 16:15まで) / 入館無料

【休館日】土曜日、日曜日、10/15(水)、10/31(金)、11/3(月・祝)

【土日開館】毎月第3土曜日

10/13(月)、11/1(土)、2(日)は開館

【後援】世田谷区教育委員会

駒澤大学禪文化歴史博物館

The Museum of Zen Culture and History, Komazawa University

〒154-8525

東京都世田谷区駒沢 1-23-1

TEL (03) 3418-9610

FAX (03) 3418-9611

<http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/zenbunka/>



禅文化歴史博物館では、本学旧文化学教室から寄贈を受けた道教関係資料約300点を所蔵しています。これらは、故窪徳忠先生（東京大学名誉教授、本学非常勤講師ほか）が庚申信仰の源流を求め、沖縄・台湾・中国本土をフィールド調査する中で収集された資料です。今回の企画展では、窪先生の研究を辿りながら、東アジア各地で収集された様々な資料とその背景にある伝統や信仰・習俗を紹介していきます。

さまざまな道教関係資料

招福・辟邪の刷り物

【年画】新年を迎えるにあたり、部屋の壁や門扉に貼る吉祥画。木版印刷の普及以降、民衆に広く普及し、歴史上の人物・民間故事・神話など民衆に人気のある、さまざまな題材が描かれる。



【門神】家の門扉を守る

神様。元は鬼門にいて悪鬼・惡靈の侵入を防ぐ神荼と鬱羅の姿を桃板に描き、門に貼ったものともされる。泰叔宝・尉遲敬德や三国志の武将などの門神も多くみられる。



道教の神々

【財神】発財や商売繁盛などを主管する神様。その顔触れは陶朱公、土地公、关羽（帝）、劉海などさまざま。



【竈神】火を司る家庭神として各家の厨房に祀られる。



竈神は年に一度、家族の悪行を玉皇上帝に報告するとされ、人々は飴を供えて口を粘つかせ、竈神の報告を妨害する。



【土地神】旧中国社会の集落において、その中心となる廟に祀られていた土地の神、村落の守り神。左手に財神として元宝（かつての銀のお金）を持つものもあり、商売繁盛の神様としても信仰を受ける。

招福・辟邪の縁起物

【元宝】



元宝は唐代以降、中国で流通した銀製の貨幣を模したもの。財貨を象徴するものとして、吉祥図や飾り物などさまざまな場面で使用される。

【八卦鏡】



風水で用いられるハ角形の板の中央に鏡、周囲に八卦を配置した道具。凶の気を反射して跳ね返すことができるところとされる。

【虎爺】虎の神に対する尊称。虎は古くから悪鬼を喰らう猛獸として邪氣祓いや厄除けの象徴として知られる。

現在でも、端午の節句には子供を悪鬼から守るため、

一日中虎のお守

りを身に着けさせる慣習が残る。



【道服】道士が日

常、または儀礼の際に着る衣服。写真は台湾の正一教道士が着る道袍で赤の地色に八卦大局の紋様がみえる。



【道符】



道教のおふだ。道士は願い事を書き、願いの対象とする神に祈る。

ふだは身に着けるもの、部屋などに貼るもの、焼いて飲むものなどさまざま。

【ポエ】占いの道具。



半月形に加工した竹や木を半裁し、片面を丸型、片面を平らにし、一対で使用。占いの後、空中に投げ俯・仰の組み合わせにより占断が神意に適ったものかどうかを判定する。

【魯班尺】

春秋時代の魯班が考案したとされる建築用の物差し。寺廟・墓などを造る際に大きさ、長さの吉凶を判断する。

展示図録をプレゼント

企画展開催期間中、館内アンケートにお答えいただいた御来館者の皆様に企画展展示図録を贈呈いたします（先着1,000名様）。



10月・11月の開館日

10月

日

月

火

水

木

金

土

11月

日

月

火

水

木

金

土

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

26

27

28

29

30

■は閉館